呼吸器内科後期研修プログラム

I. 研修目的

感冒、急性気管支炎、肺炎、肺癌、気管支喘息、COPD、肺癌など頻度の高い一般的な呼吸器疾患の診療に精通するとともに、複雑な病態を示す呼吸器疾患症例についても診断・治療上の問題点を把握・整理し、必要に応じて呼吸器内科の指導医に助言を仰ぎつつ、診療にあたれる診療技術と知識を習得することがこの研修の目的です。いわば呼吸器内科医として独り立ちするための研修期間と考えています。

また、この後期研修期間中に認定内科医を取得することは勿論のこと、その後の呼吸器専門医取得のための要件を満たすことも、本研修の重要な目的です。

さらに、並行して、総合内科認定医・専門医、呼吸器専門医、アレルギー専門医、感染症専門 医、気管支内視鏡専門医などの資格取得に向けての準備期間としての意味合いも有しています。

Ⅱ.研修の到達目標

- (1) 呼吸器内科外来初診患者の問診、診察、検査、治療並びに呼吸器内科外来再来患者の診療。 外来診察室で単独で的確に施行できることを目指す。
- (2) 呼吸器内科入院患者の診断、治療
 - 1) 呼吸器感染症(市中肺炎、院内肺炎、肺化膿症、急性膿胸、慢性膿胸、肺真菌症、非結核性抗酸菌症、肺結核または結核性胸膜炎など)

起炎菌の検出同定、起炎菌別の的確な抗菌化学療法の習得を目指す。

2) 悪性腫瘍(肺癌、縦隔腫瘍、胸膜中皮腫など)

診断、臨床病期の決定、治療方針の決定、抗癌化学療法の実施、患者・家族への説明(癌 告知も含む)、緩和医療の実施(癌疼痛対策も含む)に習熟する。

3) 気管支喘息、COPD

ガイドラインに沿った治療に習熟する。患者の自己管理による吸入療法を指導する。

- 4) 急性呼吸不全、慢性呼吸不全の急性増悪
 - 酸素療法、薬物療法、器械呼吸などによる呼吸管理に習熟する。
- 5) 各種びまん性肺疾患(間質性肺炎・肺線維症、過敏性肺炎、好酸球性肺炎、サルコイド ーシス、塵肺症など)

多種多様な疾患の鑑別診断を行う。各疾患に対する治療の習得を目指す。

6) 喀血·血痰

緊急処置の実施と原因究明を行う。場合によっては、放射線科に依頼して、気管支動脈 塞栓術を施行する。

7) 胸膜炎

診断・治療を行う。特に胸水穿刺ならびに持続胸腔ドレナージに習熟する。

8) 気胸

胸腔持続吸引などの処置を行う。持続胸腔ドレナージに習熟する。

9) 睡眠時無呼吸症候群

検査・診断・治療を行う。

10) 胸部単純写真、胸部CTスキャン 読影技術の習得を目指す。

- 11) 吸機能検査の成績の解釈。動脈血ガス分析の実施と結果の的確な評価
- 12) 気管支鏡検査

指導医の指導の下で、気管支鏡検査を自ら実施する。異常所見を的確に読み取る。 最初から最後までを1人で完遂できることを目標に多数例で実施する。

13) 呼吸管理

機械呼吸の管理、在宅人工呼吸の管理に習熟する。

14) 救急医療

専攻医 2 年目からは、呼吸器内科のオンコール体制の構成メンバーとなって、夜間・休日のコンサルテーションに対処する。その際、必要に応じて呼吸器内科指導医の指導を受ける。

Ⅲ.週間スケジュール、年次スケジュール

<呼吸器内科の週間スケジュール>

	午 前	午 後	タ 方
月	病棟業務	喘息・COPD専門外来 禁煙外来	症例検討会 勉強会 医局会
火	病棟業務	気管支鏡検査 経気管支肺生検	
水	病棟業務	喘息・COPD専門外来 気管支鏡検査 経気管支肺生検	
木	病棟業務	気管支鏡検査 経気管支肺生検 喘息教室(第3木曜日)	症例検討会 勉強会 医局会
金	部長回診 病棟業務	喘息・COPD専門外来 気管支鏡検査 経気管支肺生検	手術症例検討会 (呼吸器外科と合同) 肺癌症例検討会 (呼吸器外科と合同)

<呼吸器内科年次スケジュール>

3~6月 : 日本内科学会総会、日本呼吸器学会総会

日本アレルギー学会学術大会、日本感染症学会総会、日本結核病学会

10、11月 : 日本肺癌学会総会、日本医真菌学会総会

10~11月 : 日本感染症学会中・西日本地方会総会(合同開催)

6、12月 : 日本呼吸器学会近畿地方会

3、6、9、12月 : 日本内科学会近畿地方会

5 (6)、11 (12) 月 : 上本町呼吸器セミナー (近隣沿線医師との病病・病診連携の会)

9月:呼吸器感染症京都セミナー

2、7月 : NPO 西日本呼吸器内科医療推進機構総会

研究発表会並びに夏季学術集会